

2021年7月29日

各 位

## 8割以上の大学生が社会の動向への関心高まる

～県内大学生の就職・結婚観に関する調査～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2021年9月1日発行の「IRC Monthly」2021年9月号に掲載予定です。

### 記

#### 【調査概要】

- ・ 愛媛大学・松山大学の学生を対象にアンケートを実施した。まず、コロナ下における関心の変化を尋ねたところ、「経済・社会の動向」や「お金」、「就職」の関心が高まったとの回答が大多数を占めた。人との会話や相談の機会が減ったことで、自らの将来や社会に対する不安が高まったことが影響している。
- ・ 就職したい場所を尋ねたところ、4割が「愛媛」と回答した。大学関係者によると、昨春は、人口密集地の感染リスクの懸念から地元志向が高まったが、ワクチン報道などの影響で現在は落ち着きつつある。むしろオンライン就活の普及が、都市部への就活のハードルを下げ、都会志向の地方学生を後押ししつつあるという。
- ・ 多様な働き方に関する意向では、3人に2人が在宅勤務と副業を前向きに捉えており、世の中の変化を柔軟に受け入れていることが分かった。
- ・ 結婚に関する意向では、男女とも2割が「結婚したくない」と回答し、うち半数が「ひとりであるのが楽」を理由として挙げた。結婚したい女子学生の8割が「共働き」を希望し、結婚したい男子学生の「自分だけ働きたい」は2割未満にとどまった。
- ・ 調査を通じて、不安を抱えつつも、社会の動向に興味を持ち自らの将来を見据えている学生が多いことが分かった。彼らが充実した大学生活を送れるよう、一日も早いコロナの収束を願う。

以 上

---

【本件に関するお問い合わせ】 株式会社いよぎん地域経済研究センター（担当：西田） TEL (089) 931-9705

## はじめに

IRCでは、県内大学生の意向や暮らしぶりを把握するため、2009年から愛媛大学および松山大学の学生を対象にアンケートを実施している。

今回は就職・結婚観をテーマに、大学生の実態に迫るべく調査を行った。

### アンケートの概要

時期：2021年4月下旬～6月中旬  
 対象：愛媛大学・松山大学の学生  
 回答者数：483人  
 方法：学内の授業支援システム上で回答を依頼し、無記名方式のWebアンケートを実施。同時にアンケート内で取材対象者を募集。

### 【アンケート回答者の属性】

性別	男性254人(52.6%)	女性224人(46.4%)
学年	1回生:74人(15.3%) 3回生:286人(59.2%)	2回生:73人(15.1%) 4回生:44人(9.1%)
出身地	愛媛県内:264人(54.7%) 中国・九州:96人(19.9%) 関東:1人(0.2%)	四国3県:103人(21.3%) 近畿:15人(3.1%)
住まい	自宅:191人(39.5%)	自宅外:292人(60.5%)

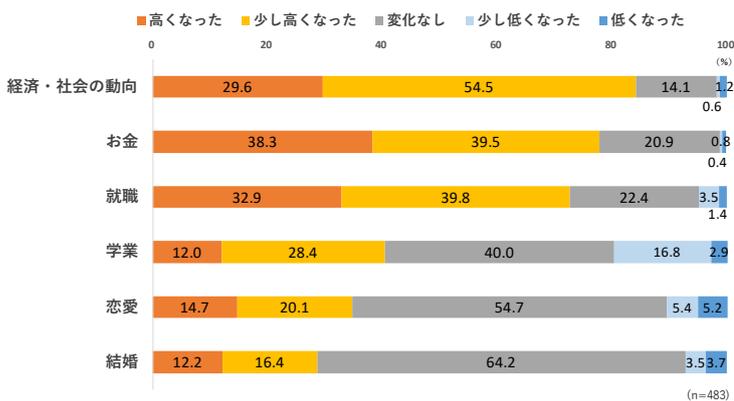
注：集計は不明分を除く。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、内訳の合計が100%にならないことがある（以下、同じ）。

## 1. コロナ下における関心の変化について

～経済・社会の動向への関心が高まる～

コロナ下における関心の変化を尋ねたところ、「経済・社会の動向」(84.1%)や「お金」(77.8%)、「就職」(72.7%)への関心が高くなった割合（「高くなった」「少し高くなった」の合計）が多かった（図表－1）。自由意見からは、人との会話や相談の機会が減ったことで、自分の将来や社会に対する不安が高まっていることがうかがえた。

図表－1 コロナ下における関心の変化



## 2. 就職観について

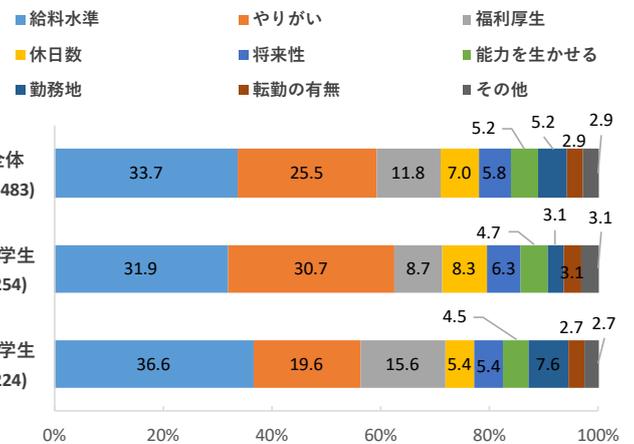
### (1) 企業選びの際に最も重視すること

～給料水準がトップ～

企業選びの際に最も重視することでは、「給料水準」(33.7%)が最も多く、「やりがい」(25.5%)と「福利厚生」(11.8%)が続いた（図表－2）。

男女別で見ると、男子学生は「やりがい」が、女子学生では「福利厚生」や「給料水準」、「勤務地」が比較的多い。

図表－2 就職する際に最も重視する項目



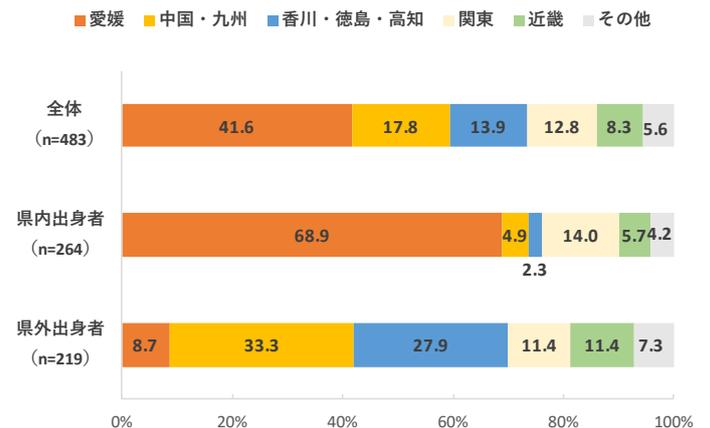
### (2) 就職したい場所

～4割が「愛媛」と回答～

就職したい場所を尋ねたところ、41.6%が「愛媛」と回答した（図表－3）。一方、「関東」は12.8%（出身者は0.2%）と都会志向の学生も一定数みられる。

出身地別にみると、県内出身者は「愛媛」(68.9%)が最も多く、次いで「関東」(14.0%)、「近畿」(5.7%)の順であった。

図表－3 就職したい場所



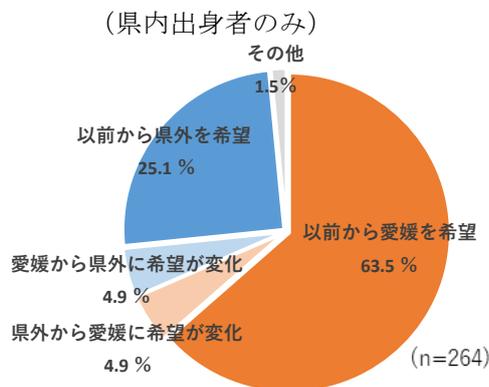
### (3) コロナによる就職したい場所の変化

～県内出身者の1割が希望場所に变化～

コロナによる県内出身者の就職希望場所の変化では、「県外から愛媛に希望が変化」(4.9%)と「愛媛から県外に希望が変化」(4.9%)が同じ割合だった(図表-4)。

大学関係者によると、昨春は、都市部の感染リスクの懸念から地元志向が高まったが、ワクチン報道などの影響で現在は落ち着きつつある。むしろオンライン就活の普及が、都市部への就活のハードルを下げ、都会志向の地方学生を後押ししつつあるという。

図表-4 コロナによる就職したい場所の変化



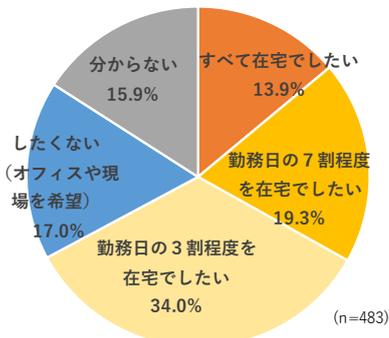
### (4) 在宅勤務に関する意向

～3人に2人が在宅勤務に前向き～

在宅勤務に関する意向は、勤務日の一定以上は在宅がよいとする回答が67.2%となった(図表-5)。

在宅勤務をしたい理由では、「通勤をしなくてよい」(64.7%)が最も多く、「リラックスして仕事ができそう」(43.3%)などが続いた。一方したくない理由では、「怠けてしまいそう」(65.5%)が最多となった。

図表-5 在宅勤務に関する意向

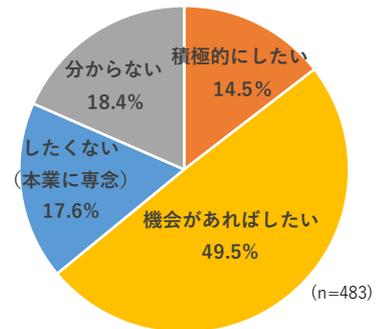


### (5) 副業に関する意向

～3人に2人が副業に前向き～

副業に関する意向は、49.5%が「機会があればしたい」と回答した(図表-6)。「積極的にしたい」(14.5%)とあわせて64.0%が副業に前向きであった。

図表-6 副業に関する意向



副業をしたい理由では「収入を得るため」(70.5%)が最も多く、次いで「興味のあることにチャレンジしたい」(40.3%)、「スキルアップのため」(14.6%)などが挙げられた。

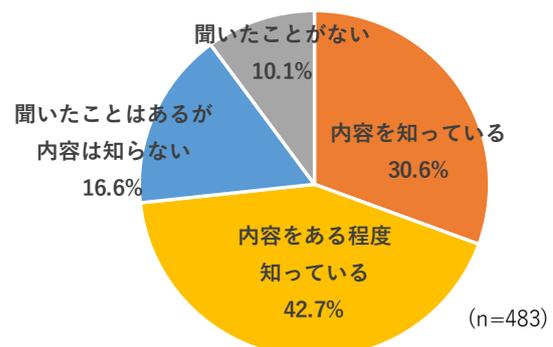
### (6) SDGsに対する認知度

～4人に3人が「知っている」～

昨今、話題となっているSDGs(持続可能な開発目標)の認知度は、「内容を知っている」が30.6%、「内容をある程度知っている」が42.7%だった(図表-7)。

取材では、「大学講義で17の目標を学んだ」との声が複数あり、学生の認知度は高い。企業が就活生に、自社の存在意義や社会的使命をPRする際、SDGsの取組みが活かせるだろう。

図表-7 SDGsに対する認知度



### 3. 結婚観について

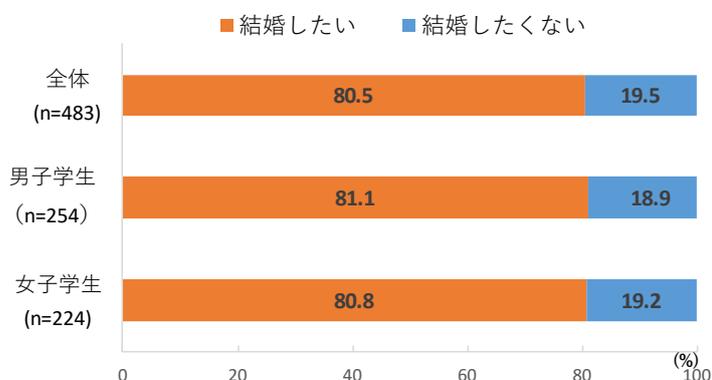
#### (1) 結婚に関する意向

～男女とも2割が結婚したくないと回答～

結婚に関する意向は、男女ともに、8割超が「結婚したい」、2割弱が「結婚したくない」と回答した(図表-8)。

また理想の結婚年齢は、男子学生が平均で26.5歳、女子学生が26.3歳となっており、結婚観における男女間の違いはほとんどみられなかった。

図表-8 結婚に関する意向



結婚したくない理由では、「ひとりであるのが楽」(57.4%)が最も多く、次いで「自由時間が減る」(19.1%)、「経済的負担が大きい」(6.4%)などが挙げられた。

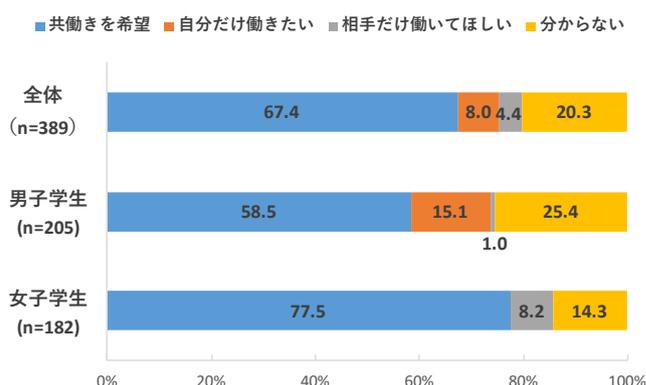
#### (2) 結婚後の仕事に関する意向

～女子学生の8割が共働きを希望～

結婚したい人の結婚後の仕事に関する意向では、「共働きを希望」(67.4%)が最多となった(図表-9)。

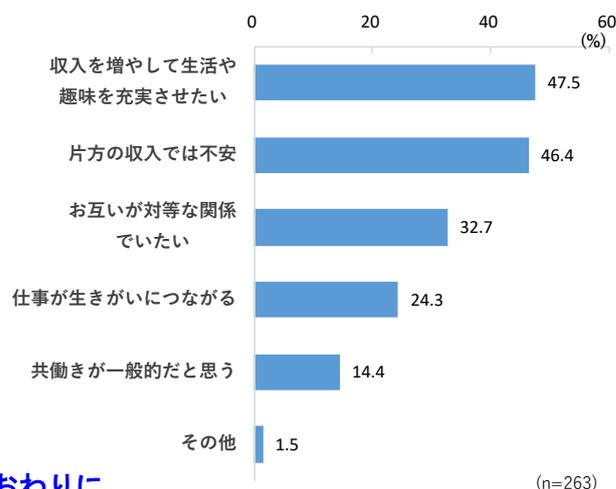
一方、男子学生の「自分だけ働きたい」(15.1%)や女子学生の「相手だけ働いてほしい」(8.2%)といった、性別による役割分業意識を持つ学生は少ないことが分かった。

図表-9 結婚後の仕事に関する意向



共働きを希望する理由では、「収入を増やして生活や趣味を充実させたい」(47.5%)や「片方の収入では不安」(46.4%)など、収入面を理由とする回答が多かった(図表-10)。

図表-10 共働きを希望する理由(複数回答)



#### おわりに

今回、アンケートに寄せられた自由意見(150件)の内容の約8割がネガティブな意見であったことから、自らの将来や社会への不安が高まっていることがうかがえる。一方取材では、不安を抱えつつも、社会の動向に興味を持ち自らの将来をしっかりと見据えている学生が多いことが分かった。

そうしたことを反映してか、大学関係者によると就職活動に早くとりかかる学生が例年以上に多いそうだ。彼らが充実した大学生活を送れるよう、一日も早いコロナの収束を願う。

(西田 賢治)